

案内

看護教育研究学会 2016 年夏季学習会

日時：8月6日(土)10:00～16:00

会場：東京通信病院小講堂(東京都千代田区)

テーマ：臨地実習における学生カンファレンスを効果的に支援するためのファシリテーションスキル

プログラム：講義／グループワーク(ファシリテーター体験)／発表／まとめ

講師：大川長子，正藤倫音

定員：非会員 3000 円 ※会員は無料

問い合わせ：事務局

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学大学院人間総合科学研究科看護科学専攻森千鶴研究室内

<http://www.nihonkango.jp/Pages/default.aspx>

案内

日本看護管理学会 第 20 回学術集会

日時：8月19日(金)・20日(土)

※トワイライト・セミナー：8月18日(木)

会場：パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

テーマ：看護管理の知—創ろう，活かそう，つなげよう

プログラム：会長講演「現場のダイナミクスから析出する『看護管理の知』」武村雪絵(東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻看護管理学分野)／基調講演「看護管理学の構築を目指して(仮)」金井 Pak 雅子(関東学院大学大学院設置準備室)／特別講演「人工知能(ロボット)が変える未来，看護が支える未来」新井紀子(国立情報学研究所社会共有知研究センター)・「ケアを育む公共哲学—コミュニティアニズムから学ぶ」小林正弥(千葉大学大学院人文社会科学部研究科社会科学系政治政策分野)・「看護制度・政策の決定過程—私たちの声をどう届けるか(仮)」野村陽子(京都橘大学看護学部)／教育講演「経営学習論—リーダーシップ開発を科学する(仮)」中原淳(東京大学大学院総合教育研究センター)・「蓄積された『知』の活用と新たな『知』の構築を目指して—医療の可視化・構造化・IT

化推進の取り組み(仮)」水流聡子(東京大学大学院工学系研究科医療社会システム工学寄附講座)・「医療現場を変える看護研究(仮)」真田弘美(東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻老年看護学・創傷看護学分野)・「周産期からの虐待予防を実現する医療連携システムモデルの構築(仮)」上別府圭子(東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻家族看護学分野)・「経験学習—一人が育つ職場づくり(仮)」松尾陸(北海道大学経済学研究科)／市民公開シンポジウム「人々の支えあう気持ちを集めて『看護』を活かす場をつくる—マギーズ東京と暮らしの保健室が提案する新しいケアの形(仮)」秋山正子(白十字訪問看護ステーション・マギーズ東京共同代表)他

参加費：会員 1 万 2000 円，非会員 1 万 4000 円，学部学生 3000 円

※情報交換会 6000 円(19 日 18:50～，ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル)

※トワイライト・セミナーは会員無料

問い合わせ：

【第 20 回日本看護管理学会学術集会事務局代行】

(株)サンプラネットメディカルコンベンション事業部

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-5-10 住友成泉小石川ビル 6 階

TEL：03-5940-2614

FAX：03-3942-6396

E-mail：20janap@sunpla-mcv.com

<http://janap20.umin.jp/index.html>

案内

第 2 回 日本混合研究法学会 学術大会

日時：8月27日(土)・28日(日)

会場：東邦大学看護学部(東京都大田区)

テーマ：混合研究法への誘い—多様性からの創発

プログラム：

8月27日

〈大会ブレ企画〉「混合型研究論文査読セミナー」マイク・D・フェーターズ(ミシガン大学家庭医療学講座教授，Journal of Mixed Methods Research 共同編集委員長)／基調講演「日本における混合研究法

コミュニティの創生と未来」抱井尚子(青山学院大学国際政治経済学部教授)／「MMR オープンフォーラム」マイク・D・フェーターズ，抱井尚子(聖路加国際大学大学院看護学研究科教授)，八田太一(京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門特定研究員)，抱井尚子／懇親会

8月28日

口頭発表セッション／学会総会／ポスターセッション／招待講演「EBM と NBM の統合的理解—実践と研究」斎藤清二(立命館大学総合心理学部教授)／〈シンポジウム〉「感染予防担当者のコンピテンシー・モデルの開発—説明的・順次的アプローチを用いて」操華子(宮城大学看護学部教授)・「社会的な課題に混合アプローチができること」河村洋子(熊本大学政策創造研究教育センター准教授)・「混合研究方法を用いた日本人高校生の英作文におけるライティング方略・メタ認知・自己効力感の分析と考察」長友隆志(宮崎県立高鍋高等学校教諭)／〈パネルディスカッション〉操華子，河村洋子，長友隆志

申し込み：学会ホームページ(<http://www.jsmmr.org/>)の「申し込みフォーム」から登録

※事前参加申込・振込期日：8月15日(月)

※〈大会ブレ企画〉は人数制限あり

【大会実行委員・ボランティア募集】

連絡は E メールにて事務局まで

事務局 E-mail：jsmmr.adm@gmail.com

案内

日本転倒予防学会 第 3 回学術集会

日時：10月1日(土)・2日(日)

会場：ウイंकあいち(愛知県名古屋)

テーマ：フレイルと転倒予防

プログラム：

特別講演(対談形式)「氷上のバランスと転倒」原田敦(国立長寿医療研究センター病院長)，伊藤みどり(フィギュアスケート選手)／基調講演「フレイルのこれから」鳥羽研二(国立長寿医療研究センター)／シンポジウム「フレイルと転倒予防」「フレイルの転倒予防における意義」荒井秀典(国立長寿医療研究センター)・「身体面からみたフレイルと転倒リスク」

山田実(筑波大学大学院)・“高齢者の認知・精神機能と転倒リスク”牧迫飛雄馬(国立長寿医療研究センター)・“社会的側面からみたフレイル”藤原佳典(東京都健康長寿医療センター研究所)・“フレイルに対する栄養介入”葛谷雅文(名古屋大学大学院)・“地域在住フレイル高齢者に対する介入は転倒リスクを減らせるのか”金憲経(東京都健康長寿医療センター研究所)／パネルディスカッションⅠ「多職種で取り組む転倒予防チームはこう作る！」地域づくりをめざした転倒予防活動(長野県東御市)岡田真平(身体教育医学研究所)・“転倒による中度・重度外傷のないデイサービス(介護保険事業所)のケアスタッフ連携の取組み”見野孝子(LC ウエルネス)・“介護老人保健施設における多職種協働の転倒予防”笠井明美(介護老人保健施設尾山愛広苑)・“国立長寿医療研究センターの転倒予防チームにおける多職種連携”安藤悦子(国立長寿医療研究センター)・“東名古屋病院の転倒予防チーム(チーム1010-4)の取組み～多職種で楽しく多面的な介入を！”養場郁子(東名古屋病院)／パネルディスカッションⅡ「転倒予防のためのリハビリテーション」病院における転倒予防:バランス評価尺度 SIDE とその運用について寺西利生(藤田保健衛生大学)・“回復期リハビリテーション病院における転倒予防”福江亮(西広島リハビリテーション病院)・“バランスロボットによる転倒予防:フレイル高齢者に対するバランス訓練ロボットの効果”佐藤健二(国立長寿医療研究センター)・“地域高齢者に対する二重課題を用いた転倒予防”山田実／ワークショップⅠ「地域での『転倒予防教室』企画・運営の実践と課題」病院における転倒転落予防の取り組み小山内美智子(旭川医科大学病院)・“転倒予防外来の企画と運営の実践”北澤(北整形外科)・“転倒予防 DVD 制作の企画と実際”寺山美華(自治医科大学附属病院)・“地域住民が行なう生活支援と介護予防の取り組み”内堀浩行(長野県御代田町保健福祉課介護高齢係)／ワークショップⅡ「転倒予防のより良い学術研究論文を作成するために:第1報[研究の仕方と倫理]上岡洋晴(東京農業大学), 北湯口純(身体教育医学研究所うなん)／学会報告「転倒・転落のリスクの

アセスメントツールに関する調査の概要報告」征矢野あや子(佐久大学)／スポンサードセミナー「フレイルと睡眠医療～せん妄と転倒を増やさない薬物選択」平俊浩(福山市民病院)／ランチョンセミナーⅠ「転倒とビタミンD—最新の知見から」鈴木隆雄(桜美林大学)・Ⅱ「認知症と転倒リスク」櫻井孝(国立長寿医療研究センター)／イブニングセミナー「地域連携でのリエゾンロコモ予防」佐藤公治(名古屋第二赤十字病院)
※イブニングセミナー:10月1日(土)17:30～18:30, 終了後情報交換会
参加費:会員5000円, 非会員8000円(プログラム・抄録集別途2000円), 学生2000円(学生証提示, プログラム・抄録集別途2000円)
問い合わせ:運営事務局
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23 アクセスお茶の水ビル5F(株)ドゥ・コンベンション
TEL:03-5289-7717
FAX:03-5289-8117
E-mail:jsfp2016.office@umin.ac.jp
<http://jsfp2016.umin.ne.jp/>

案内

第10回看護教育研究学会学術集会

日時:10月15日(土)9:30～
会場:日本大学文理学部(東京都世田谷区)
テーマ:変革の時代における看護教育—当事者の意思決定への支援を考える
プログラム:「会長講演」野中美穂(大航海会オサマラ訪問看護ステーション所長)／一般演題①／特別講演「自分で一歩踏み出す支援—関わり方と支援のコツ—臨床教育学の立場から」東宏行(埼玉県立大学保健医療福祉学部共通教育科)／一般演題②
参加費:
会員5000円(当日)
非会員(～9/30)5000円, 当日5500円
大学院生を含む学生1000円
問い合わせ:看護教育研究学会
〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学大学院人間総合科学研究科看護科学専攻森千鶴研究室内
TEL:029-853-8062

<http://www.nihonkango.jp/Pages/conference.aspx>

案内

平成28年度看護学教育ワークショップ

日時:10月27日(木)・28日(金)
会場:千葉大学けやき会館(千葉県千葉市)
テーマ:卒業時到達目標の評価をどう行ない, どう活かすか—大学改革時代における看護学教育の継続的質改善への挑戦
プログラム:
10月27日
ワーク“知る”①「看護系大学を取り巻く大学改革の動向」(文部科学省)／ワーク“知る”②「全国の看護系大学における看護実践能力育成の現状調査」看護系大学学士課程における臨地実習の現状並びに課題に関する調査研究(JANPU)・看護系大学における卒業時到達目標評価に関する全国調査(当センター)／ワーク“知る”③「自大学の卒業時到達目標」評価の取り組み事例／ワーク“創る”①「自大学の卒業時到達目標」評価の取り組み」／グループ討議の発表／交流会
10月28日
ワーク“創る”②「自大学の卒業時到達目標」からみた自大学の課題」／ワーク“創る”③「自大学の課題解決アクションプランの検討」／ワーク“推進する”「アクションプラン実現を推進するアイデア共有」
定員:
初日半日(ワーク“知る”の部)250名, 全日程60名
参加要件:
ワーク“知る”参加者:参加要件なし
全日程参加者:看護系大学において, 看護学教育に責任をもつ立場にある教員あるいはFDの担当者(原則として, 准教授以上)であり, 以下①～③を充たす者
①ワークショップ全日程参加, ②「自大学の卒業時到達目標」評価の取り組みの報告ができる, ③「自大学の卒業時到達目標」からみた課題解決アクションプラン(案)を討議できる
※全参加者に講演資料の他, “看護学教育におけるFDマザーマップ活用ガイドver2”配付

INFORMATION

参加申込: ホームページ(<http://www.n.chiba-u.jp/center/>)より「実施要領」参照のうえ、千葉大学看護学部センター事業支援係宛

詳細:

申込締切: 8月19日(金)

問い合わせ: 千葉大学看護学部センター事業支援係

TEL: 043-226-2464

E-mail: nursing-practice@office.chiba-u.jp

<http://www.n.chiba-u.jp/center/>

案内

大分県立看護科学大学 第18回看護国際 フォーラム

日時: 10月29日(土) 12:30~17:00

会場: 別府ビーコンプラザ国際会議場
(大分県別府市)

テーマ: 認知症の人と紡ぐ看護実践—
今、私達に求められる看護のチカラ

プログラム: 「認知症とともに、よりよく
生きる」吉田美穂・水谷佳子, RN, (の

ぞみメモリークリニック, 認知症当事者の会)／「日本と大分の認知症施策の方向性と看護職への期待」吉田知可, PHN, RN, MSN, 精神保健福祉士, 介護支援専門員(大分県福祉保健部高齢者福祉課地域包括ケア推進班副主幹)／「的確にアセスメントし, せん妄を予防する」小川朝生, MD, PhD(国立がん研究センター東病院精神腫瘍科長先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野長)／「重症認知症患者が快適に過ごすための看護の在り方」キャロル・O・ロング, PhD, RN, FPCN, FAAN(米国アリゾナ州立大学校看護医療大学非常勤教員)／総合討論

参加費: 一般 2000 円, 学生 500 円(資料代等)

※同時通訳レシーバー 1000 円別途, できるだけおつりのないように

申込締切: 10月14日(金)

申し込み: E-mail(forum2016@oita-nhs.ac.jp), または往復ハガキに所属・氏名・同時通訳レシーバー使用の有無と, 返信用に送付先を記入のうえ下記まで

〒870-1201 大分市大字廻栖野 2944-9
大分県立看護科学大学看護国際フォーラム事務局

ム事務局

<http://www.oita-nhs.ac.jp/events/detail/21>

案内

兵庫県立大学 臨床看護研究支援セミナー

日時: 11月5日(土) 10:00~16:00

会場: 神戸国際会館 805 セミナー室(兵庫県神戸市)

テーマ: セミナーシリーズ: 看護研究
「授業のゴール設定と組み立て」

プログラム: 「授業のゴール設定」講義・
グループワーク／「授業の組み立て」講義・演習

講師: 坂下玲子(兵庫県立大学看護学部教授), 小野博史(同助教)

定員: 30 名

参加費: 8000 円

申し込み: 応募フォーム(<http://kango-kenkyu.org/seminarlist/>)より

申込締切: 10月25日(火)

問い合わせ:

<http://kango-kenkyu.org/>